

より三角に折りゆきて終りに其の葉柄を通すなり
以上は某氏の調べたるもの、匣底に残れるを掲げ
たるなり。自然物を材料とする遊戯の必要にして
且興味あるものなることは既に一般に認めらる、
所唯之を如何に實際に應用せらる可きかは實地保
育者の熱心に依頼するのな外し。

子供と両親

奇山人

子供に對して深い關係のあるのは、父親であるか
母親であるか、それは見やうに依ては、父親の方
であらう、又見やうに依つたら母親の方であらう、
仲々考へて見れば面倒な問題のやうであります、
けれど私は種々の方面より見て、母親の方に、よ
り大なる關係があらうと思はれます。

第一は肉體上の關係である。
子供は父母より生じたものにて、その初めに當
つて、何れが重く何れが軽しといふ譯には參らぬ
としても、母の方には、胎内十ヶ月の間全然母の

肉體に依つて成長するものであるから、この間に
おける肉體上及び精神上、母より受ける感化は、
非常なものであります。この點に於て母親は父親
より大なる關係を持つものです、この關係は恰も
植物が地質次第で、善くも悪くもなると同じもの
である。地質が悪いのに、その植物が善くなる筈
はない。母親が悪くして、子供の善くなる筈がな
いのはこの通りであります。

第二は保育上の關係である。
子供は或一定の時迄には、母親の乳を飲む、父親
の膝の上に登ることは尠いのであるが、母親の膝
の上には殆んど間斷なく登つて乳を飲む、従つて
母親の肉體及び精神上的の感化を受けることが夥し
いのである。即ち保育の大部分は、母親が掌るか
らであります。

第三には心理上の關係である。
母親の子供に關係多きは、只に前に記せる點
ばかりではない、やゝ長じても、父は多くは外に
出で職務が忙しい、殆んど全く母親によつて監督
され訓育される、子供の心理的狀態が母より多く

影響するといふのは、まさに然るべき所でありま
す。

女子教育の大切なる所以
されば子供は、殆んど母親の育て方次第であると
いふことは、明瞭なる事實であつて、母たる人の
教育の大事なることは、今更言ふに及ばぬことで
ある。任にその衝に當る女子教育者の責の重且つ
大なることは、さることながら、生れて女性たる
方は、十分の用意がなければならぬ、女子教育、
女子修學の大切なることはこれにて分る、さはい
へ、男子の方面からいへば、男子の方も仲々重い、
注意すべきことの多い中に、殊に酒色に耽ること
が、その子に激烈な害を残すことを承知せねばな
りません。

婦人の節操

樂天子

婦人の節操は百行の本、萬徳の中心であります。
論語に周公の才の美なりと雖も、驕り且つ吝なれ

ば、その餘は見るに足らずとありますが、婦人の
人格を論ずるにおきましても、又かくの如しと言
はねばなりません。如何に彼の清少納言の機智才
藻がありましても、婦人の節操の點に於て、如何
はしいことがありましたら、その餘は見るに足ら
ぬと言はねばなりません。

これに依て之を見るときは、女子の節操は、學識
よりも才能よりも、財産よりも、美的修養よりも、
重きが上に重くして、女子の人格を左右するもの
と言はねばなりません。

されば、わが國に於ては女子の節操は、古來男子
の忠愛心に比し如何なる順境に在つても、如何な
る逆境に在つても、之を亂さないやうに努むるこ
とは、必ずしも中等以上の婦人に強ふるばかりで
なく苟も女子と生れたる以上は、所謂「貞女兩夫
に見えず」の格言を以て、終生の教訓としたるも
のであります。

然るに現時の説は、どうであります。女子と雖
も、男子と同じく人權天福を有して居ります。有
夫の婦、又は有婦の夫にして、他に二心を有する